

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173501131), 法人名 (医療法人社団 上田病院), 事業所名 (グループホーム ゆうゆう(月)), 所在地 (室蘭市日の出町2丁目2番27号), 自己評価作成日 (平成30年9月25日), 評価結果市町村受理日 (平成30年10月31日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3ユニットのグループホームです。各ユニット2階建て吹き抜けがあり光が差し込み明るい雰囲気です。3ユニット全て開放されています。他ユニットの入居者やスタッフが自由に行き来でき交流が活発です。リビングから上がる階段は筋力の維持に役立っています。玄関前にはベンチと庭があり花や野菜を育てています。気軽に外気浴を楽しむことができます。四季の行事では春は近隣の公園へお花見へ出かけたり、近隣の公園へ行き園内を散策しています。夏には室蘭水族館でペンギンのパレードを見学、秋には向かいに建つ同事業所のグループホームたんとんと合同で恒例のバーベキューを行い交流を深めています。実りの秋には毎年壮瞥町まで出かけどうぞ狩りを楽しんでいましたが今年は地震があり入居者の安全を考慮し中止しています。冬は室内での行事が中心になりますがクリスマス会や新年の書初め、福笑等お楽しみ会を行っています。町会との関わりではバーベキューに参加していただいたりお祭り等の行事に参加、避難訓練時には協力を得ることができています。医療法人が母体であり身体の変化がある時にも速やかに医師と連絡が取れ訪問看護で住み慣れた環境の中で安心して治療を受けることもあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0173501131-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成30年10月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営するグループホームゆうゆうは、JRやバス停から徒歩圏内、市場や商店にも近い住宅街に位置し、利用者が地域生活を継続できる環境である。隣接の系列事業所と合同の行事や避難訓練、運営推進会議には、多くの地域住民が参加され、開設当初から変わらぬ応援を得ている。建物は、各ユニットが2階造りで、吹き抜け窓の開放感あるリビング、8畳程の広い居室など、ゆったりとした住環境である。職員は利用者と共に過ごす時間を大切に、何気ない言葉や些細な変化もキャッチし、満足と安心の暮らしを支えている。年中行事や季節毎の外出も多く、気分転換や楽しみのひとときを工夫している。医療面も安心の充実支援で、日常の健康管理、その先の終末期を見据えた看取りケアの体制も整えている。利用者支援の要として家族と密に対話し、信頼関係を築いている。認知症ケア15年の実績を糧に、職員は笑顔と温かい気配りで、利用者一人ひとりが悠々と、日々その人らしく過ごせるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は法人で作成し玄関に貼りだしている。ユニットでも目標を作り目標に合ったユニット作りをしている	運営理念とケア理念は、玄関の掲示やネームプレートに記載し、常に確認できるようになっている。ユニット目標を決め、職員間でサービスの方向性を共有し、利用者支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し町会行事へ参加している ホームの行事にも町会の方の参加がある 避難訓練には町会の方の協力が得られている	地域関係は良好であり、相互交流が深められている。春秋の町内清掃参加や、事業所前庭が子供神輿の休憩所に活用されたり、BBQ会にも住民の参加を頂いている。演芸や歌、踊りのボランティアの来訪も定期的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練や行事参加の機会を通じ入居者さんと実際関わってもらう事で認知症を理解してもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度実施し家族や地域の方、市役所、包括支援センターの方等出席し意見交換を行っている 同時に身体拘束・虐待防止委員会も開催し現状の報告を行っている会議の内容は家族に配布している	会議は隔月で開催し、報告内容に事故やヒヤリ報告も含め、詳しく情報を開示している。地域の現状や各種情報についての意見交換もあり、会議の場が有効に活用されている。会議録で家族に内容を報告している。	家族には通信等で参加の呼び掛けを行っているが、出席が少ない状況である。今後も継続して、当事者である利用者・家族の参加召集の取組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種の会議や研修会などに参加し分からない事がある時は質問や相談をしている	包括支援センター主催の徘徊模擬訓練に参加し、地域の認知症高齢者の支援に協働している。市への報告類は担当部署に持参したり、保護課担当者とは申請手続きや定期訪問で協力し合い、利用者の安心できる生活を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けている委員会では現状報告や今後の対応等話し合っている身体拘束に関する研修会などに参加している。現在は1名家族と書面を交わし拘束している。家族面会時には現状を報告している。2ヶ月毎の運営推進会議には身体拘束・虐待防止委員会を開催し現状報告し意見交換している	身体拘束適正化委員会は運営推進会議内に設け、関わる事例を報告している。指針に基づいて研修を企画し、外部研修、その伝達講習等で、職員全員に身体拘束に係る内容の理解を促している。止むを得ない拘束対応では三原則に則って適正に行っている。玄関の施錠は夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話し合い内部で研修を行ったり外部での研修にも参加し防止に努めている 職員同志で言葉の乱れには普段から注意し合える環境を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を必要とされる方がいました。現在は居ませんが今後も増えてくる事が予想され学ぶ機会があれば学んでいく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には全項目を読み上げ説明し質問には答え理解、納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している 苦情受付・苦情解決責任者・第三者委員会を設置し意見や苦情があった場合は小さなことでも速やかに職員に周知し家族の希望に沿うようしている	其々の家族状況や心情を汲み取り、家族の安心に繋がるよう対応している。関わりの中で意向を伺い、環境整備等の要望は速やかに改善に繋げている。毎月の通信のほか、個別に月次報告を送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや毎月のユニット会議やリーダー会議・勉強会研修会などで意見交換し、都度検討し反映させている	会議に参加できない職員には、事前に書面で意見等を出してもらい、意見交換やその反映に繋げている。申し送り時や個別面談でも意見を聞き取り、研修やシフト調整など、働き易い職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種の資格取得のための研修への参加 担当業務の割り当て・個別の面談の実施		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・研修会・講習会への参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やグループホーム連絡会で情報の交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族より書面、面談等で情報を収集、本人の言葉・表情などから思いを探る努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を密にとり本人の今までの生活状況や希望等について都度確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を十分に聞き、状況に応じて他のサービスを含めた情報を提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して生活ができる事できることで残存機能を維持し役割が持て職員と一緒に家事等を行い自分らしさが自然に出せるように支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは細目に情報を共有し、希望等を聞いている。面会時にはゆっくりと過ごせる様に配慮している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊などは自由に行っている 行きつけのお店など本人や家族の意向を受け対応している	知人や近所の人達の来訪は、居室やリビングで自由に過ごしてもらうので、他の利用者とも顔馴染みになっている。寺参りや友人とカラオケ、馴染みの店で買い物をするなど、今までの生活の延長、継続を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の交流は自主性を重んじ見守っている 時には仲介に入ったり見守りしながら良い関係が継続できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院など退去する場合、受け入れ先と十分に連携し情報を提供し、出来るだけ今までと同じように生活ができるようにしている。相談には応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を確認している 意思の疎通が困難な場合は本人の様子を観察しながら家族から情報収集している	利用者の日常を観察し、何気ない言葉も察知して、意向や希望を理解するようにしている。家族とも情報交換しながら、思いに添う生活に向けて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の希望を重視している 入居前より、本人・家族より生活歴などの情報を収集し書面にし職員に周知している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが自分らしく過ごせるようプランに添って記録し、心身の状態に応じて対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を聞き、職員がサービス担当者会議やユニット会議、申し送り時に話し合い、情報を共有し必要な支援内容について具体的に作成している	担当職員を決めて、利用者の生活全般をサポートしている。2ヵ月毎にモニタリングを行い、短期6ヵ月の見直し前にサービス担当者会議で協議し、家族や医療者の意向や助言を盛り込んだ介護計画を作成している。本人の現状に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間日々の暮らしの様子を細かく観察ケアプランに添って記録出来る様努めている。特別なことは特記事項へ記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望があった場合や本人の状態に大きな変化があった時にはケアプランの変更等検討する		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には町会長や町会役員などに参加してもらっている 地域の子供達や新たなボランティアの受入れ 消防・町会と連携した防災訓練の実地を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から情報収集を行い本人家族の希望があれば継続して医療を受けられるよう支援している	協力医療機関が母体法人であり、月1回院長の往診、健康相談として看護師同行で月2回医師の往診、年3回の定期健康診断が行われている。希望のかかりつけ医や専門科の受診も、家族と協力して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が月2回健康相談時に同席しています。日々の中で変化のある時には速やかに医師報告し必要に応じ訪問看護をうける事があります。月1回の院長往診もあります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護添書を記入し同様のケアが受けられるよう努めている 退院時にも看護添書を受け取り退院後の生活がスムーズに行えるよう努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の覚書に添って本人の望む生活で対応している 主治医と連携し、治療方針など説明、要望に添えるよう配慮している	契約時に重度化や終末期の対応について説明している。覚書は、入居後少し慣れた時期に交わしている。詳細な看取り指針に基づいた実践体制が整えられており、利用者・家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを作成している 緊急時のシュミレーションを毎月初めに1週間実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回日中・夜間を想定し防災訓練を行っている。入居者・町会の方も参加で行っている。朝の申し送り時にもシュミレーションを行う様にしている	今年度は消防署立会いの下、日中想定した火災と、津波を想定した避難訓練を実施し、年度内に夜間想定した訓練を予定している。訓練時には地域住民7、8名の参加があり、防災意識を共有し協力体制を築いている。	胆振東部地震時の対応を検証する予定があり、さらに必要備蓄品の準備や、当地で予想される災害等の対策検討やその訓練の取組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応には十分注意しプライバシー保護を徹底している	職員は利用者の人格尊重を基本としており、日常の関わり方に十分に配慮している。特に言葉使いは親しさが馴れ合いにならないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の表情や言動を観察し、手を出し過ぎずゆったりとした環境の中で自己決定の場を作りながら本人の思いや希望を表現できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れの中で個々のペースに合わせて生活している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは自分で選んでもらっている 散髪は本人の意思にまかせている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがある方には代替えし本人の好みの物を提供している。食事は職員も一緒に同じ物を楽しく会話しながら食べている	献立内容をアレンジして、好みや食べたい物、身体状況に合わせて工夫している。職員も同席同食する和やかさが食の楽しさを引出しており、収穫野菜やおやつ作り、誕生会の希望の料理も豊かな食生活に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックし把握している きざみ・ミキサー・お粥・トロミ剤の使用など 個々の状態に合わせ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している 自分ではできない方には介助し、うがいなどが 困難な方は口腔清拭施行している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している	座位が保てる限りは、トイレでの排泄を支援し、排泄機能の維持や自立支援に努めている。状況によりポータブルトイレを使用したり、布下着着用や衛生用品の種類検討もきめ細かく行い、羞恥心や生活の快適さを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握しできるだけ、下剤に頼らず出来るだけ食べ物での排便を促す食材の提供やお腹のマッサージや運動等で便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週に2回の入浴と希望や拒否がある時には都度対応している	入浴剤の使用や希望の毎日入浴、浴室内での会話や歌など、楽しげな場面作りで気持ち良い入浴を工夫し、概ね週2回の入浴を支援している。湯上りビールの楽しみも、家庭的な支援になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室やリビングで休憩出来るようにしている。個々のペースで就寝準備・入床支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服用している薬の一覧を作成している。誤薬が無いよう服薬前には名前・日付を読み上げ確認し服薬してもらっている。特変がある場合は医師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事やドライブ・同法人のグループホームとの合同レク、家事等を職員と一緒に 行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴には体調やそれぞれの希望で外出している 買い物や行は職員が同行している 家族の協力外出・外食している	事業所全体の外出の他、各ユニットでも外出の機会を作り、道の駅や大湯沼、桜や紅葉見物など四季を楽しみ、生活の変化を工夫している。事業所周辺や公園、市場付近も散歩コースであり、洗濯物干しやベンチでの日光浴も気分転換になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の思いを大切に紛失時のことも考慮し、家族とも相談し決めている 買い物希望する時は同行している。現在お金所持している方は1名(小額)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。 自分でかけられない場合は介助し話ができるようにしている。個人に届いた郵便物は渡している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けになっていて窓からの光や風が心地よく感じられます トイレ、居室には名前を付け室温、湿度にも気を付けています季節毎にみんなで作った壁の飾りを変えています	リビングは、吹き抜けの天窓や大きな窓から自然光が注ぎ、開放的な居心地よい空間になっている。ユニット毎にカーテンの色や食卓、ソファの配置が異なり、利用者がゆっくり寛げる環境を作っている。温・湿度等にも配慮し、季節の装飾が家庭的な温かさを醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに座りおしゃべりをしたり気の合う入居者さん同士歌や体操お喋りを楽しんでいます。椅子を離れた所へおき 一人の空間も作っています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用していた馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらうようにしている。安心して居心地良く過ごしてもらうよう努めている。本人の希望により居室を移動した方もいる	居室は、ベットや整理ダンス、上置き棚等が備えられた8畳ほどの広さである。家具や仏壇、家電等が持ち込まれ、毎年の誕生日色紙や表彰状、家族写真等を飾り付け、その人らしい居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建てで階段を昇降することで体力維持に努めている。手すりや取っ手の位置を低くし、トイレの戸にはトイレの印を浴室にはお風呂のマークで分かり易くしている。手すりの位置には配慮している		